

宿泊研修における交流会のご案内(3月24日開催)

2016年2月23日

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいている皆様方へ

滋賀県で働いておられる医師・看護師・保健師・助産師の皆様方へ

里親学生支援室では、3月24日(木)・25日(金)に東近江市・日野町方面で宿泊研修を実施します。

3月24日の夜には、里親・プチ里親の方々や地域で勤務されている医師・看護師・保健師・助産師の皆様と参加学生との交流会を下記のとおり行いますので、是非ともご参加ください。

参加お申し込みの場合は、①第1部・第2部のいずれからご参加のご予定であるかと、②住所、氏名、連絡先等を電話・FAX・メールで3月11日(金)までに里親学生支援室へお知らせください。

また、ご多忙とは存じますが、開始のそれぞれ5分ほど前までには会場にお越しくださいませう、お願いいたします。

記

1. 日時: 平成28年3月24日(木)

第1部 講演・意見交換 午後5時30分～午後6時30分

「三方よし研究会について学ぶ」

小串医院 院長 小 串 輝 男 氏

丸山薬局 代表 大 石 和 美 氏

第2部 学生報告会・懇談・会食(飲料はノンアルコールでの提供)

午後6時45分～午後8時45分 の予定

2. 会 場 八日市ロイヤルホテル

東近江市妙法寺町690 (TEL)0748-24-0111

[問い合わせ先]

滋賀医科大学 里親学生支援室

077-548-2802

E-mail satooya@belle.shiga-med.ac.jp

1月13日に第7回「卒業後の自分を考える」連続自主講座を開催しまし

2016年2月17日

た

小児科領域のお話を聞きたいという要望により、1月13日にクリエイティブモチベーションセンターにおいて講師に、阪上 由子医師(滋賀医科大学小児発達支援学講座・特任助教、滋賀医科大医学科19期生)、中村 美智 看護師(滋賀医科大学医学部附属病院看護部 NICU/GCU 6年目看護師、滋賀県立総合保健専門学校卒業)、西澤 嘉四郎医師(近江八

幡市立総合医療センター副院長、滋賀医科大学医学科3期生)をお迎えし、お話を聞かせていただきました。

阪上由子先生からは、子どもたちの命と健康を支える「メンタルヘルス」を中心にお話いただきました。

・我が国の児童・思春期をめぐる精神保健の歴史は、戦後の戦災孤児の養護から始まり、発達障害、虐待へとピックスが変化していて、発達外来の診察では、虐待症例などの事例検討会等、関係機関との連携を要するケースが年々増えています。

・小児科では「成長+発達=発育」という視点で子どもの発育を評価していますが、神経発達障害 (Neurodevelopmental disorder) の多くは学童期以前に出現し、通常の発達と異なり、社会性・対人相互交流性コミュニケーションの課題をもつASD(自閉症スペクトラム障害)、不注意や多動衝動性が顕著なADHD(注意欠如多動性障害)、読み・書き・計算などの学習スキルに課題をもつLD(学習障害)などが含まれます。神経発達障害の診療においては、福祉や教育との連携が重要で、地域においては発達支援センターなどが中核となり、切れ目なく支援を継続する体制が作られつつあります。また、虐待の予防については妊娠早期からの母体のメンタルヘルスのマネジメントが重要であることが明らかになってきました。出産後に保護者の抱える「養育困難」をどうサポートしていくかが今後の課題です。



ご自身は、滋賀医大卒業後は大学小児科へ入局、結婚、大学院へ入学、出産と順風満帆な人生を歩んでこられました。が、家人の介護、ご自身の病気と問題が生じて大学院を中退された後、小児科(発達外来)での診療に従事され、小児科学会専門医、小児精神神経学会認定医、医学博士の学位を取得され、現在は小児発達支援学講座のスタッフとして勤務されています。

人生には色々な問題も生じますが、サポートしてもらえ職場の皆との和、お互い様という気持ちが大切とおっしゃっておられました。

中村美智先生からは、NICU・GCU病棟勤務看護師の仕事についてお話いただきました。

・滋賀県立総合保健専門学校卒業後、滋賀医科大学医学部附属病院に就職し、産婦人科病棟での勤務を希望されましたが、NICU(新生児特定集中治療室)・GCU(成長促進室)病棟の勤務となりました。

・当初は、赤ちゃんの小さいことにびっくりし、聞いたこともない疾患や慣れない看護技術に戸惑い、こんな特殊な部署で看護師として働けるかな?と思いましたが、勤務も6年目となります。

・ケアが予後に影響するので、赤ちゃんが出す小さなサインも見逃せず、勤務中は、常に緊張との戦いですが、小さく産まれた赤ちゃんが、日々成長していく姿や両親の笑顔が励みとなり、ここで看護師をしていて良かったと思います。



NICU・GUC病棟の看護師は、赤ちゃんの看護だけでなく、赤ちゃんのご両親の心のケアや、赤ちゃんの退院に向けての育児指導などご家族との関わりも大切とおっしゃってられました。

西澤嘉四郎先生からは、小児科医の現状と小児医療供給体制についてお話いただきました。

- ・小児科は、15歳以下の小児を対象とする診療科ですが、子供を診るだけでなく親も診る診療科です。
- ・現在、小児科医の高齢化が問題です。
- ・皮膚科、眼科、小児科では、医師の3割以上が女性医師です。
- ・滋賀県内の周産期医療体制の充実を図っているため、新生児の死亡は少なくなっています。
- ・小児救急医療は、新臨床研修制度(2004年)頃より病院で標榜している小児科数が減少し小児科救急医療が難しいなか、小児科救急に関する課題を検討し小児科医療提供体制の構想を進めています。
- ・高度先進医療、臨床研究の推進に伴い、様々な新しい治療方法の開発が進められています。
- ・医療技術の進歩によって在宅での医療支援が必要な子どもや長期生存が可能となった難病の子どもは増加傾向にあり、小児科という年齢を超えた成人医療への連携と、次世代につなげる成育医療が必要になっています。



ご自身は、滋賀医大卒業後は大学小児科へ入局後、国立立川病院で勤務された後、滋賀医科大学大学院修了後は、滋賀県内の病院小児科医として勤務されています。

一度滋賀県外に出て働いたことで、滋賀県の良さや大学の温かみがよく判りました。色々な経験を積むことが大切とおっしゃってられました。

学生との懇談時に「学生が卒業までにやっておくべき事は、何ですか？」と質問した答えは、3先生とも「コミュニケーション能力を高めておくこと」でした。



【参加学生の声】

○滋賀県の地域医療体制の話が興味深かった。

○小児科から内科への引継ぎの難しさについてもう少し聞いてみたかった。

○NICUの赤ちゃんの小ささに驚きました。なるべく赤ちゃんは助けたい気持ちになります。しかし、助けると医療費がかかるという話も聞いたことがあり、どうすることが正解なのか・・・。

○これまで何となく小児科に行きたいと考えていただけで、小児科がどのような勤務状況なのかといった具体的な内容を知らなかったのも、そういった話を聞くことができて良かったです。また、NICUについてもどのようなものか知らなかったのも、考えたことがなかったのですが、少し興味を持つことができました。今後も様々な自主講座に参加し、視野をひろげて、自分に本当に合った科はどこなのか考えていきたいと思います。

○とてもインフォーマティブな内容で勉強になった。小児科がいかにジェネラルな科であるかがよくわかった。少子化と小児科の関わりについても聞きたかった。

○小児科医は、子どもだけでなく、家族(親)までしっかりみて支えていくことが求められるのだということがよく分かりました。また、患者さん及びその家族を支えるのには、いろいろな職種が協力が欠かせないのも再確認しました。やっぱり大切なのはコミュニケーション力なのですね。